

RT JOURNAL

4月1日よりFY2019がスタートしました。

(2018年4月より2019年3月)

私たちは新しい目標に向けて走り出します。

新年度、Beyond Quality 50 オペレーションを目指して！

FY2019 の新スローガン「BQ50」



BQ50 の BQ は Beyond Quality の頭文字です。
 今期は高品質業務体系の構築を目指します。



One Team, One Management, One Goal

全社一丸となり、一つの方向性を持って、
 一つの目標に向かって欲しいという
 気持ちを込めました。

前年度は、当社の重要なお客様をはじめ、多くのステークホルダーの皆様の多大な支援を受け、社員全員の努力とあわせて、大きな飛躍の年となりました。有難うございます。新年度 FY2019 においては、前年度にすすめてきた Quality Operation 質的改善をさらに推進し、**Beyond Quality 50** として、標準化とシステム化をさらに構築、各部門でトータル 50 の目標を含む、持続的安定的ビジネスポートフォリオ作りを進めます。また、当社日本法人はリーテックグループのグローバルハブの重要拠点のひとつでもあるため、さらにグローバルでの連携体制を強化し、お客様に当社ならではのソリューション、VP※1 顧客価値創造をご提供したいと思えます。まずは、全社一丸、「One TMG」(One Team, One Management, One Goal) をベースに、常にコンプライアンス (法令順守) の徹底と CSR (企業の社会的責任) 活動推進とともに事業を通じて、いつでも社会貢献できる会社を目指します。



代表取締役
須藤 直以

※1 VP とは Value Proposition の略であり、お客様にとっての価値を創造し、提供すること。

各事業所長から働くメンバーへメッセージ

相模原センター
鈴木 祥恵智

相模原は IT & Mobile のスタッフ、及び関係各位のご協力により、昨年目標を全て達成出来ました。新年度は新規ビジネス獲得しましょう！！



大阪支店
徳田 剛

FY2018 は、仕入台数前年比 2.2 倍に。お取引先様、パートナー様、そして大阪支店、センターメンバーに感謝。



守口センター
松本 忠嗣

も もっともっと
り リバースサプライチェーンを実行し
ぐ グループで力を合わせ
ち 挑戦し続けるセンターになろう！



東京 RSC センター
山下 信雄

TRC としての飛躍を目指し全員の気持ちを一つに目標に向かって邁進しましょう。責任と自覚を問われる年と認識し、ランクアップを目指しましょう！



橋本センター
高 艶麗

今年の橋本センターはニュービジネス発足の初年なので、チーム一丸となって新たな目標、標準化とシステム化を実現できるように頑張しましょう！



東京江東センター
大沢 龍一

前年度の目標をクリアできたのは、センター全員の頑張りがあったからです。本年度も更なる飛躍を目指して一緒に頑張しましょう！



LiTong 香港の
Tonyさんと Elaineさんからも
日本メンバーへメッセージが届きました！

日本のマーケットは
多くの可能性を秘めています。
私たちも全面的に日本をサポートするので、
FY2019 も目標に向かって
突き進んでいきましょう！

Japan is a big potential market!
We would definitely support Japan
& Let's make another
break through in 2019!



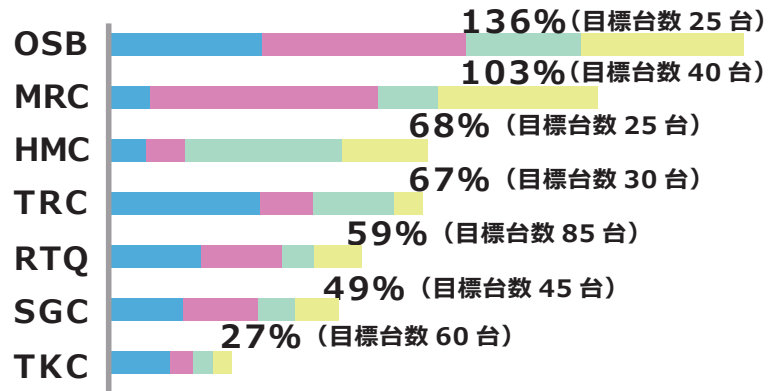
LiTong Group HQ
CEO Tony Wang
CGO Elaine Lo

『私たちのメダルプロジェクト』回収終了まで残り3ヶ月。 目標回収数量まであと50個！

『私たちのメダルプロジェクト』も、折り返し地点となりました。大阪支店に続き守口センターも回収率 100%達成です。他の拠点の皆さまも引き続き、ご協力をお願いします。オリンピックのメダル（金・銀・銅）を作るためには、金が 40kg、銀 4,900kg、銅が 3,000kg 必要と算出されています。日本では 1 年間に約 65 万 t の小型家電が廃棄されていますが、その中には 844 億円分もの貴重な金属が含まれているそうです。自然の金山から採れる金鉱石には 1t あたり約 5g の金が含まれていますが、回収された携帯電話 1t（約 1 万台）から回収できる金は約 280g にもおおよびます。^{※1} 一つひとつの金属価値はそれほど多くはありませんが、リーテック丸となり、少しでも環境保全に向けて貢献をしていきましょう。

※1 数値データは環境省発信のエコ・マガジン「エコジ」より抜粋

各拠点の目標達成率



※在籍人数 × 5 台を各拠点の回収目標としています。

青色は 12 月、赤色は 1 月、緑は 2 月分の達成率を表しています。

前回、大幅に回収量を増やした橋本センターを直撃取材！
橋本センターにはメンバー発案の工夫がたくさんありました。

橋本センターならではのこだわりの回収 BOX



回収 BOX

- ・倉庫にあった用具入れを使用
- ・いらなくなった机の板を切断して蓋に改造
- ・棚を組み立てる際に使用する金具を開閉器具として使用
- ・あまったプラスチックチェーンに南京錠をつけて施錠

※全て橋本センター内にあるもので制作したためコスト 0 円
センター内を整理整頓した際に使えるような部品を多数発見

RT JOURNAL vol.03 で橋本センターが最下位だったことをきっかけに、朝礼でそのことを伝えたところ、皆が積極的に不要家電を持ってきてくれるようになりました。もともと、回収 BOX づくりでもメンバーが協力してくれて、橋本センターならではの素材で制作をすることができました。その中心となってくれたのは吉良さんです。センター内の整理整頓や備品を管理しながら、この素材が BOX に使用できるかもと構想を膨らませ、セキュリティ意識の高い回収 BOX が完成しました。

プロジェクト担当：塩屋 佐登美さん



整理整頓された備品



用具入れ



BOX に使用した部品



橋本センターで働くメンバー

『私たちのメダルプロジェクト』に限らず、改善がいつぱいの橋本センター
今回はその内容を一部ご紹介します！



番地が明確なネスナー
貼替え可能なマグネットに記載されたバーコードで番地の取得も瞬時にできる。



ネームや番号で管理
個人用のヘルメットや、皆が使用する PC など、通し番号や名前を貼って管理している。

全員が理解できて、効率がよくなる方法を模索して、実施している橋本センター。ネスナーに番号を振って管理することで、どの製品がどこに保管されているかが一目でわかるようになりました。今後、橋本センターの Lily さんを中心に「RTJ センターオペレーションの紹介プログラム作りプロジェクト」が進んでいきます。よいアイディアは全拠点でシェアし、標準化と効率化を推進していきましょう！

文京学院大学カリキュラム

『フィールドプロジェクト演習Ⅰ』にリーテックが参画！

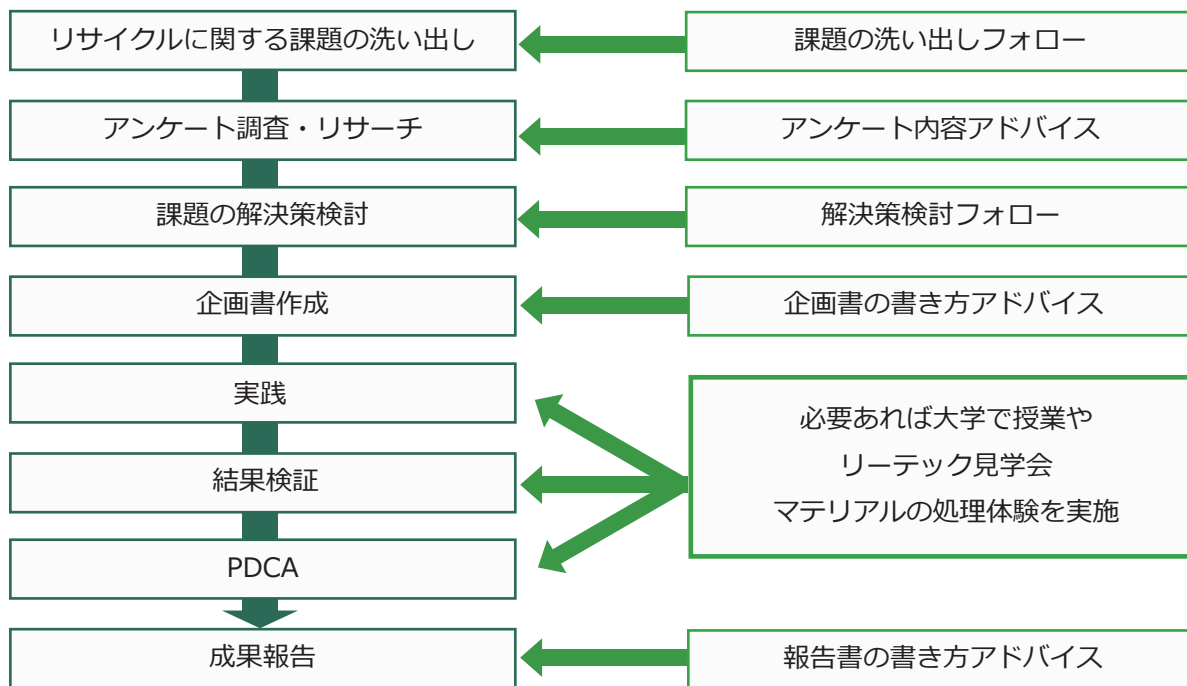
4月19日(木)より1年間、大学3年生と一緒に社会課題を解決に向けて奮闘します。

文京学院大学のカリキュラムにある「フィールドプロジェクト演習」は学生が企業と連携して社会貢献や地域貢献をしながら、実践経験を積んで、成長していくための通年の授業です。ハイテクIT機器は需要を高め、大量生産、大量消費、されています。このIT機器のライフサイクルアセスメント※1を学生と一緒に考えながら、彼らが思う課題の解決に向けて、リーテックがお手伝いをしていきます。IT機器がもたらす環境影響とはなにか、その解決には何が必要でどんな行動をするべきか、学生ができることは何か、リーテックができることは何かを模索していきます。今回のプロジェクトでは、実際に大学で講演を行ったり、大学生がセンターを見学する可能性もあります。各部門の皆さまにもご協力をいただくことがあると思いますが、その際はどうぞ宜しくお願いします！

※1 ライフサイクルアセスメントとは、製品が「素材採取から生産、流通、廃棄・リサイクル」されるまでの全工程もしくはその範囲において及ぼす環境影響を定量的に評価する手法。

取組みの流れ

今回のプロジェクトは基本的に学生主体の活動となります。彼らがリーテックの事業を理解し、連携して社会貢献や社会課題の解決ができるように取組みを進めていきます。大学生にリサイクルについて興味を持ってもらい、少しでもエコロジカルなライフスタイルを実現して欲しいと考えています。



一緒に取り組む文京学院大学の教授へ、今回の授業に求めることを伺いました！

大学では理屈を教えることが多く、社会背景や調査はできますが、実学的なことを教えてビジネスにつなげることは難しいです。学生たちが将来を考える中で、社会人や、大人と触れ合うことはとても大切で貴重な体験であると思います。社会貢献をしたい学生はたくさんいますが、ボランティアでは自分自身が生活することができません。環境貢献をビジネスとしているノウハウや、仕事の仕方、考え方などをぜひ教えて欲しいと思っています。今回の授業を通じて、これからの社会に何が必要で、自分たちがどんな生活をしていきたいのか、ライフスタイルを考えるきっかけとなり、更には起業する学生が出てくることを期待しています。



人間学部 コミュニケーション社会学科
学科長 教授 工学博士 中山智晴先生

ISO認証更新が完了しました！

2月26日から3月2日の期間に実施された審査機関 bsi による外部審査について、3月13日に認定登録証が届き、正式に認証の更新が完了しました。ISO のマネジメントシステムは認証を受けることが目的ではなく、きちんと運用ができているかが重要です。4月より FY2019 がスタートしましたが、今年度は ISO についても体制を強化させ、スムーズな運営ができるように努めます。各拠点の皆さまのご協力も必要不可欠ですので、ぜひご協力のほど、宜しくお願いします。



ISO 9001



ISO 14001



ISO 27001

エコロジカルなオフィスへ。ISO をきっかけに少しずつ節約を心がけています。



東京本社や大阪支店に置いている裏紙専用 BOX



印刷無駄をなくすための啓発ステッカー

確認資料などの印刷は積極的に裏紙を使用し、複数面を1枚に印刷をしたり、印刷をするべきか再度確認をすることで紙やインクの削減に繋がります。節約は個人の意識で結果が大幅に変わります。ぜひ、よい節約アイディアはシェアしましょう！

節電のご協力ありがとうございます
Thank you for your cooperation in saving power. Re-Teck

紙の節約のご協力ありがとうございます
Thank you for your cooperation in saving paper. Re-Teck

節電のご協力ありがとうございます
Thank you for your cooperation in saving power. Re-Teck



不使用時は
電気を消しましょう！

節約ステッカーが ISO/EMS 藤岡さんより共有されています。
掲示のご協力をお願いします。

“FY2018 RTJ QL Award” 15件のエントリーがありました。



RTJ QL Award

RTJ QL Award とは？

チームもしくは個人で FY2018 に行った業務改善に対して、会社が理解し、それを表彰することで今後の「Quality operation」の構築に生かすことを目的とした取組みです。通常業務以上の成果や、大きく会社へ貢献したスタッフへは賞状が授与され、個人評価へポイントがプラスされます。

エントリー数は 15 件。のべ 50 名のスタッフがノミネートされています。

現在、全てのエントリー内容を確認し、個別にヒアリングを実施しています。内容を精査し、業務執行委員会にて承認を得たのち、表彰をいたします。今回応募された案の中から、模範的な取組みは標準化プロジェクトでも取り上げ、リーテック全体で業務改善を行っていく予定です。また、来年度も Award は続きますので、FY2019 も新しいことに挑戦し、提案・改善をしていただきますよう、宜しくお願いします。

編集後記



RT JOURNAL も今回で 5 回目の発行となりました。4 月は FY2019 はじまりの年でもありますので、特大号として 4 ページ作成しました。情報量も多く、読み応えのある内容になったのではないかと思います。（注：次号からはまた 2 ページに戻ります。）先日のアンケートでは、たくさんの嬉しいご意見や、新しいアイディアをたくさん頂きましたので、それも少しずつ紹介していきたいと思います！ CSR 小野真菜